

問題1

Aの空欄のくずし字を読みとって、Aの空欄のくずし字を読んでみよう。

A



歌合とは？

歌人が左右二組に分かれ、同じ題で詠んだ和歌の優劣を競う遊びです。ひらがなが普及し、和歌が盛んに詠まれるようになり、貴族の間で流行しました。

この和歌は村上上天皇の時代、天徳四年（九六〇）に、内裏（天皇の住居、御所）の歌合で詠まれました。

たひらのかねもり
平兼盛

しのぶれど色に*

①

我が

ものや

②

は

③

人のとふ*

④

*しのぶ：隠れる。
*色：顔色、表情。
*問ふ（問う）：尋ねる、質問する。

★この和歌を読んで、わかった
ことをメモしましょう！

★和歌のお題は

年
組
番
名前

問題2

Bの空欄のくずし字を読みんでみよう。

B



歌合とは？

歌人が左右二組に分かれ、同じ題で詠んだ和歌の優劣を競う遊びです。ひらがなが普及し、和歌が盛んに詠まれるようになり、貴族の間で流行しました。

この和歌は村上天皇の時代、天徳四年（九六〇）に、内裏（天皇の住居、御所）の歌合で詠まれました。

壬み生ふ忠の見ただ

①

てふ吾*

なは

まだき*

②

人

③

おもひそめしが*

*てふ…くという。
*まだき…まだその時期ではない。早い。
*おもひそめ…思いはじめる

★和歌のお題は

★この和歌を読んで、わかったことをメモしましょう！

年 組 番 名前

解答

問題1 *括弧内は字母

①い でにけり (以帝爾介利) ②こひ (己比)

③おもふと (於毛不止) ④まで (末天)

☆和歌のお題 「しのぶ恋」

問題2 *括弧内は字母

①こひす (己比寸) ②たちにけり (太知爾介利)

③しれずこそ (之禮春己曾)

☆和歌のお題 「忍ぶ恋」

教材について

ねらい…くずし字の学習を通して、文字や言葉の変化と

平安貴族社会における和歌の在り方を理解する。

時間配分…説明5分、解く時間15分、解答解説5分

計20分

対象教科…国語・社会・書道

○使い方 (1または2の方法で使用します)

1 問題1または2を単独の教材として使用します。使用しなかった方の和歌は教員が説明してください。

2 ペアワークまたはグループワークで問題1・2をそ

れぞれ解きます。問題1と2それぞれの和歌の解釈から、この対決のお題を探ります。

*時間がある場合は調べ学習をします。

問題解説

今回使用した二題は、「天徳内裏歌合」において平兼

盛と壬生忠見が詠んだ歌で、名勝負として後世に語り継

がれています。双方共に素晴らしい歌で、なかなか決着

がつかず、村上天皇(第62代天皇・在位九四六〜九六七)に

判断を仰いだところ、「しのぶれど」と口ずさんだこと

から、兼盛が勝ちました。『沙石集』(鎌倉・説話・無住

道曉)によると、負けた忠見はシヨックのあまり、心を

病み、「不食の病」(拒食症)になって、亡くなったとさ

れています。しかし、『袋草子』(平安・歌論・藤原清輔)

や『忠見集』から、『沙石集』のエピソードはフィクション

で、忠見はその後も生きていたことが分かります。こ

のあたりのエピソードは調べ学習に取り入れてみてください。

さい。

本来、歌合はお題に対して和歌を詠むものですが、今回は、和歌の内容からどんなお題で競ったのか推理して

みましよう。

問題1 「百人一首」40番の和歌です。(所載歌集『拾遺集』恋一 六二) 作者は平兼盛です。

① 「い」は現在のひらがなと同じ形で「以」からきています。「で」は「帝」に濁点がついたもの、「に」は「爾」、「け」は「介」、「り」は「利」です。「いづ」はダ行下二段動詞「出づ」(出る)で「にけり」は「くてしまった」という意味なので、「顔(色)に出してしまった」と訳します。「色」とは、現代と同じ色彩に関する意味だけではなく、色彩の美しさから転じて、人の容姿・容貌の美しさ、人の内面が表れる表情、自然の気配を表現するのにも使われました。特に、「色に出づ」は、恋の思いが表情に表れる場合に用いることが多い表現です。

② 「こ」「己」「心」「比」で「こひ(恋)」を指します。なお、「恋」は恋愛に関する意味以外にも、目の前にないモノを求めて、慕う気持ちを表します。

③ 「おもふ」は現在のひらがなに近い形で、「於毛不」です。直前の「や」が疑問の係助詞で「思ふ」が連体形の係り結びとなり、「(恋の)もの思いをしているのか？」

となります。「と」は「止」です。

八行四段動詞「思ふ」は、恋愛表現の場合、愛情を誓う語として用いられることがあります。神仏に誓って愛するというニュアンスが込められています。

④ 「ま」は「末」、「で」は「天」に濁点がついたものです。「人が尋ねる(質問する)まで」となります。

和歌全体を活字に直すと、次のようになります。

しのぶれど 色にいでにけり 我がこひ(恋)は
ものやおもふ(思ふ)と 人のとふ(問ふ)まで

「詠 隠しているも、顔に出してしまった。私の恋は、「恋の物思いをしている？」と人が尋ねるほどに。」

表現 二句切れ・倒置法

隠していたはずの恋。しかし、他の人から私を見ると、「どうしたの？」と尋ねられるような顔色をしていたんだ。と会話の要素と客観的要素を両方読み込んだ作品です。「しのぶれど」とありますから、「隠していた恋」 〳
「忍ぶ恋」がお題だとわかります。

問題2 「百人一首」41番の和歌です。(所載歌集『拾遺集』恋一 六二) 作者は壬生忠見です。

①「こひ」は「恋」、「ひ」は「比」、「す」は「寸」です。「こひ(恋)」を「す(している)」という意味です。

②「ま」は「末」、「だ」は「多」に濁点がついています。

「き」は「幾」です。「まだき」とは、「早くも(まだその時期に達していない)」という意味の副詞です。「た」は「太」、「ち」は「知」、「に」は「爾」で、「たち(立ち)」で、直後の「にけり」が「くしてしまつた」という意味なので、「噂が)立ってしまった」と訳します。

③「し」は「之」、「れ」は「禮」、「ず」は「春」に濁点がつきます。ここでの「知る」(ラ行下二段動詞)は「知っている」ではなく、「知られる」という意味になり、「す」という打消の助動詞(ない)がつくので、「知られない(ように)」となります。「こそ」は現在のひらがなとほぼ同じ形で、「已曾」がもとになっています。「こそ…已然形」で係り結びになっていて、逆説(くけれど)で訳します。和歌全体を活字に直すと、次のようになります。

こひ(恋) すてふ 吾なはまだき たちにけり 人
し(知) れずこそ おもひそめ(思ひ初め) *しが(し
か) *教材は「しが」となっています。

訳 恋をしているという噂が早くも立ってしまった。人知れず思い初めたばかりなのに。

表現 三句切れ・倒置法

他の人に知られないようにしていたはずのひそかな私の恋が、なぜか人の噂うわさになってしまっている。隠していたはずなのに、他の人にばれた驚きや戸惑いが感じられます。平兼盛の和歌のように、お題に直結する言葉はありませんが、「隠していた恋」＝「忍ぶ恋」がお題であることが読み取れます。

使用教材

『百人一首抄』は文政二年(一八一九)に江戸時代後期の国学者で、歌学者である長野美波留ながの みはるによって書かれました。上段に三十六歌仙と年中行事、下段に百人一首抄が書かれています。歌仙絵や歌、歌意、出典などが掲載されています。江戸時代後期の作品ですので、くずし字も比較的阅读みやすく、初級教材としておすすめです。底本は「国立国会図書館デジタルコレクション」で公開。 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2538626>

担当：岩崎彩香





『百人一首抄』平兼盛・壬生忠見の歌が掲載されているページ(国立国会図書館デジタルコレクション)



『百人一首抄』表紙(国立国会図書館デジタルコレクション)